



Flyin' to the Sky

京都府立大学 国際センター ニュースレター

Nov. 2018 Vol.13

留学体験特集

今回は学生の海外留学および海外からの留学生の体験特集号です！

京都府立大学のプログラムによる海外留学

韓国：漢城大学校サマースクール 2018年8月9日～22日

文学部歴史学科 3 回生 安江範泰



近現代史に関心をもつ私にとって、語学講座と共に名所見学・各種体験が毎日充実した今研修は、現在の韓国や日韓の若者の様々な現実を肌で感じる貴重な機会となりました。

買い物に出掛けた繁華街や野菜を使った舞台劇では、韓国の獲得した物質的な豊かさを実感しました。韓国の男子学生が総じて、学年からの想定より2歳年上であることに気付き、南北軍事境界線辺りを訪れた折、過去の徴兵生活について話を聞いてみました。韓国の民俗文化を紹介する博物館に入り、はじめて展示を始終英語で読む中で、日本の博物館はどうだったかと思いを馳せました。そのように、それらの見聞きの中で外国人の視点をもつことを通じて、自分にとっての日本での「当たり前」も今までは異なった姿で見え始めました。今後日本社会の理解がさらに深まることを期待しています。

今回の研修で交流した他の日韓の学生には、アイドルの歌や映画、アニメなどを通じて相手国の文化に親しむ過程で語学を磨いてきた学生が少なくありませんでした。このことは相手国の文化から新たに言語を知り、それによってその文化や歴史のさらなる深部が理解できるようになる…、という好循環を想起させ、語学が私個人の近現代史研究にも資するという可能性、さらには日韓相互理解の新たな可能性をも感じさせられました。

中国：東華大学短期中国語プログラム 2018年8月12日～25日

文学部日本・中国文学科 3 回生 今村梨良

東華大学では最初に口頭試問でクラス分けが行われました。その際に授業で使う教科書を確認できるため自分に合ったクラスを選ぶことが出来ました。授業では多国籍の学生たちが自由に発言をしており、音読でも日本との違いを感じました。拼音に不安がありましたが授業を受ける中で段々と聞き取れるようになったと感じました。

中国語と英語とで授業が進みますが、英語の説明も分かりやすかったです。グループワークの際に英語で話し合いを補完したり観光の際も英語で接客を受けたので、想像より英語の使用頻度が高くて驚きました。授業が午前中で終わるため予定が立てやすく、ほぼ毎日観光することが出来ました。中国では電子決済サービスが進んでいるため戸惑うこともありましたが、観光地はもちろんスーパーでの買い物も面白かったです。

また、週に2日放課後に文化体験講座がありました。短期コースでは京劇の仮面作りや餃子作りなどをしましたが長期の方はさらに中国舞踊なども教わったそうです。私は府立大学の学生と3人で行きましたが、一人で来られてる方や高校生、社会人の方も多く、様々な立場から中国語を学ぶ方と交流することができ、貴重な体験になりました。



ドイツ：レーゲンスブルク大学サマースクール 2018年8月24日～9月19日



文学部欧米言語文化学科 2 回生 本馬詩織

レーゲンスブルクで体験した出来事全てをここに記すことは到底できない。それくらいドイツでの経験は私にとって抱えきれないほど多く、その1ヵ月間は今までで一番充実して満ち満ちた時間であった。

このレーゲンスブルクの研修はドイツ語を現地の大学で学ぶことを主としていて、授業はレーゲンスブルク大学の先生のネイティブのドイツ語で行われた。最初は聞き取れなくて何を指示されているのか戸惑うこともあったが、段々と聞き取れる単語が増えて、授業を受けるのが楽しくなっていた。時には外へ飛び出し、研修の皆で大聖堂やお城、醸造所などへ赴き、ドイツの文化、歴史を肌で感じた。

それだけがドイツ語や文化を学ぶ場所ではない。ちょっとした散歩や日々の買い物は生のドイツ語を聞いたり、自分のドイツ語力を試す良い機会であった。教科書では学べない会話表現を知ったり、使ったりできる。私は、店の方とドイツ語で少し会話できたことがとても嬉しく、忘れられない思い出である。外国人と話すことへの躊躇が少しなくなった。

私にとってはこの研修が初めての海外で、海外に行くこと自体に不安を感じていた。しかしレーゲンスブルクは緑豊かでとても素敵な場所で私の不安など吹っ飛んでしまった。目にするもの、耳にするもの、触れるもの全てのことが初体験で、好奇心が抑えられないほどであった。メイン料理には大抵ジャガイモが添えてあったり、スーパーにはペットボトルを回収する機械があったり、日本にいる間半ば伝説のように語っていたこと一つ一つが実際に存在することを知って驚き、日本にはない物や景色を見て感動した。何が一番心に残っているかと問われれば、全て、と答えるしかない。それほど私にはこの研修がとても貴重な経験であった。

ドイツ：レーゲンスブルク大学中期留学 2018年2月28日～7月31日

文学部欧米言語文化学科 3 回生 内館佳子

大学に入って勉強し始めたドイツ語。新しい言語を学ぶのは楽しさもありましたが、うまく話せるかな？会話が成立するかな？と留学前はとても不安でした。

留学して始めの一か月の集中クラスは刺激がいっぱいでした。同じレベルなのに語彙力が豊富で、間違えながらも積極的に発言するクラスメイトの姿を見て圧倒され、同時に焦っていたのを覚えています。しかしみんなで一緒に勉強していくうちに、いつの間にか相手の言葉が聞き取れるようになり、自分の意見を伝えられるようになりました。ドイツに来たばかりの時に行ったお店で、当初は英語で伝えることしかできなかったのに、4か月ぶりに行くとドイツ語で会話ができ、ドイツ語が少しは身についたんだと実感でき、嬉しかったです。

留学で経験したことは、忘れられない貴重なものになりました。日本とは違うゆったりとした時間、温かい人、青々とした自然、どれをとってもドイツは素敵でした。



ドイツ：レーゲンスブルク大学中期留学 2018年2月28日～7月31日

文学部欧米言語文化学科 3 回生 塚本尚千

はじめに、このレーゲンスブルクでの中期留学を申し込んだ理由は二回生の夏に参加した1ヶ月間のレーゲンスブルク海外研修でもっと長く滞在して欧米の文化に触れたい、語学力をさらに向上させたいと思ったからです。

実際、レーゲンスブルクでは本当に充実した毎日を送ることが出来ました。大学の授業は初めの1、2ヶ月はドイツ語を聞き取ることに精一杯で着いていくのがやっとでしたが、少しずつ耳が慣れてきて話を理解できるようになりました。正直、留学前まではドイツ語の文法やニュアンスの理解にモヤがかかった状態でしたがネイティブの先生に実践的なドイツ語を1から学ぶことで理解が深まりそのモヤがほとんど無くなりました。そこが語学力において一番大きな成果だと思えます。また、第二外国語を勉強するメリットとして他の言語も同時に学べる点があると考えます。他国から来た留学生と話す際はほとんど共通語である英語を使っていたので、英語の語学力も向上しました。



休みの日はドイツで出会った友達と旅行したり、一緒にご飯を作って食ったりと充実した休日を過ごしました。また、様々な欧米諸国を訪れることで、ドイツだけでなく欧米諸国の文化に触れることが出来ました。旅行中に驚いたことはドイツ語の高い有用性です。ドイツ以外の欧米諸国でもドイツ語が話されていて、ドイツ語を多くの場面で使うことが出来ました。また、現地の方々と英語ではなく、ドイツ語で会話する方が親密になれたことからこれも第二外国語を学習するメリットであると言えると思いました。

そのほか、この中期留学を通して書き切れないくらいたくさんの方のことを学び、自らを成長させることが出来ました。ここでの経験をこれからの勉学、将来に活かしていきたいです。

ドイツ：レーゲンスブルク大学中期留学 2018年2月28日～7月31日

文学部欧米言語文化学科3回生 片桐千晶

文学部・欧米言語文化学科に在籍する私は、入学前から学科に用意されているドイツ語の語学留学プログラムに興味を持っていたので、この留学は念願叶ってのことでした。

留学先であるレーゲンスブルク大学では半年間、外国人向けのドイツ語の授業を受けました。授業はすべてドイツ語です。やはり言葉が聞き取れなかったり、話せなかったり、苦しい思いをしました。それでも留学前に比べてドイツ語、ドイツ文化に関する見識を広げられたことは確かであり、この先も学科での勉強に精を入れていきたいと思っています。

ドイツ語の勉強ももちろん重要な課題でしたが、自分の日常ではない他の世界を見られたことが、この留学においてなによりも得難いものであったと思います。クラスメイトや旅行先の人々の生き方、国の在り方、いろいろなことを見聞きし、自己を省みる機会となりました。そうして世界、日本という故郷、それぞれの素晴らしさを実感できたことこそ、かけがえのない財産です。

平成最後の年のドイツでの語学留学は、自身を大きく成長させてくれたものとなりました。貴重な経験をさせていただけたことに感謝し、今後の勉学、人生に活かせるよう努めてまいります。



ドイツ：レーゲンスブルク大学中期留学 2018年2月28日～7月31日

文学部欧米言語文化学科3回生 矢田七海



5ヶ月間のレーゲンスブルク留学は私にとって大きな挑戦でした。正直言って、留学以前は自分のドイツ語力にはあまり自信がなく、出発前には大きな不安を感じていました。しかし結果として、この留学は私のこれまでの人生において最大の財産となりました。

私と同じように自分の語学力に不安を感じ、留学に二の足を踏んでいる方もいると思います。確かに、留学当初は授業についていくことが難しく落ち込む日々が続きました。しかし日を追って徐々に理解できることが増えている自分のドイツ語力の成長を身を持って感じる事が出来るようになり、そのことはまた自信へと繋がっていきました。

レーゲンスブルクは私にとって初めてのヨーロッパ訪問でした。欧米言語文化学科で日々学び、長く憧れていたヨーロッパに初めて足を踏み入れた感動は忘れることができません。やはり本や映画の上のみの学びだけでなく、実際に生で文化に触れることが最大の異文化理解の学びであると感じました。レーゲンスブルクで実際に生活することでドイツ文化を深く知ることが出来ただけでなく、週末や長期休暇には近隣のヨーロッパ諸国に赴き様々な国の文化に触れました。また、他の交換留学生との交流の場も多くあり、ヨーロッパのみならずアメリカ大陸、アジアなど世界中からの留学生との海を越えた素晴らしい交友関係を築くことが出来ました。

このように5ヶ月間の留学の経験は私の貴重な財産、宝となりました。この5ヶ月間の思い出を忘れることは無いと思います。

トビタテ！留学 JAPAN による海外留学

ガーナ：プロジェクト・アブロードでのボランティア活動 2018年8月20日～9月18日

生命環境科学部生命分子化学科3回生 増淵朋生

私がガーナに行きたかった理由は、ワールドカップやサッカーゲームの影響で高校生くらいの時から日本とは全く違う環境であるアフリカ、特に西アフリカ地域に興味を持つようになり、機会があれば訪れて実際に生活してみたいとずっと思っていたからです。また、ガーナはアフリカの中でも比較的治安が良いということを知ったり、西アフリカ地域で唯一の英語圏であったりなど、西アフリカ地域の中で一番生活しやすそうなお国であると思ったからでもあります。



後列右端が増淵さん

活動内容としては、幼稚園を訪問して、そこで園児たちの遊び相手、英語・数字の読み聞かせ、先生のサポート、食事のサポート、折り紙を折ってあげるなどを主とするケアボランティア活動とガーナでは土を食べる文化があるので、休日を生かして、実際に食用土の特徴を簡単に調べ、園児たちの体型や食事に関係があるのかを推測していました。また、ケアボランティア活動後は週に一回道路が未整備な田舎の小学校に行き、英語の読み聞かせと一緒にタッチフットをしていました。

トビタテは一次審査の書類審査・二次審査の個人面接・グループディスカッションがあり、特に一次審査用の書類作成はトビタテの審査の中で最も大変で、自分の活動を文字だけでどのように他の人にわかりやすくアピールすればいいのかということがとても難しかったです。二次審査は初めて他大学のトビタテ応募生と会う機会であり、その人たちとは普段、府大では話すことができなかった留学への思いを本気で話すことができ、後にガーナでお世話になった友達とも知り合うことができました。

この留学は、高校生の頃からずっと憧れ続けてきた夢が実現できた良い機会であり、それを応援してくれる人が大勢いるという発見にも繋がりました。さらに、実際に訪れてみることで本やネットで知ることのできなかった活気や民族性、物の価値観などを知ることができ、今まで自分が生きてきた範囲はとて小さく、考え方も凝り固まっていたということを実感しました。そして、もっとこの活気あるところで生活をして、現地の人と一緒に働きたいという新たな夢ができました。

最後に、トビタテの手続き・渡航に際して、ご協力して下さった皆様に深く感謝申し上げます。

トビタテ留学！JAPAN 日本代表プログラムとは？

文部科学省が展開する官民協働の海外留学支援制度。アカデミックな留学のみならず、「実践活動」に焦点を当てた海外留学プランを学生自身で組み立てて応募でき、採用されれば留学費用を含めた手厚い支援が受けられる。

中国 東華大学から京都府立大学への留学 2017年9月～2018年9月

京都府立大学に特別聴講生として参りましたのは、2017年の九月のことでした。あっという間に、この原稿を書いている時点でもう一年が経ちました。

東華大学 劉詩婷

実は、日本に来る前、自分は、海外生活に慣れるのか、友達ができるのか、今まで勉強してきた日本語が活用できるのか、いろいろ心配してたまりませんでした。でも、本当にこのキャンパスに足を踏み入れて、なんだか心がかえって落ち着きました。それに代わって、「本当に日本に来た！」や「新しい生活が始まるよ！」などの声が頭で繰り返し、日本に来た感動はいよいよ心の底から湧き出で、ますます鮮明になりました。



最初、大学で授業が始まると、自分の勉強不足のせいで日本人学生と同じスピードで専門の授業を受けるのはかなりハードでしたが、先生方がやさしく指導して下さったおかげで、徐々に進歩を遂げ、自信が強くなりました。また、授業の後、皆さんは授業での難しい単語をやさしく説明してくれたり、日本の文化や習慣に関する疑問をこたえてくれたりして本当に助けてくれたと思います。おしゃべりは簡単でしたが、私にとって貴重な勉強時間でした。

また、このせつかくの一年間の留学生活を利用して、日本のいろいろなところに観光に行きました。「雪の国」北海道、「桜の都」東京、「日本のハワイ」沖縄、そして心を和ませて歴史に浸った大好きな京都、、、様々な風景をこの目で見たことで、視野が広がってきたと同時に日本文化に対する理解も深めることができたように思います。もしできれば、もう一度2017年の9月に戻せないものかと、帰国前の最後の日、鴨川に沿って散歩しながらそう思います。

一年間はあっという間でしたが、すべてが私にとってかけがえのない思い出です。いつもサポートしてくれた皆さん、本当にありがとうございました。

発行日 2018年 11月

発行責任者 国際センター長 川瀬光義

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

TEL: 075-703-5905 Email: kokusai@kpu.ac.jp